



導入活用にあたっての検討ポイントを徹底解説！

企業価値を最大化する クラウドDWH活用戦略

～主要4プラットフォーム最新解説～

本日のアジェンダ

- 1 データ基盤構築で現場が直面する「理想と現実」
- 2 主要プラットフォーム比較
- 3 失敗しないためのアーキテクチャ選定 「3つの論点」
- 4 アンケートと個別診断のご案内

本資料がおすすめの方



本資料では、データ活用を検討している現場責任者の方向けに、主要プラットフォームの現状をお伝えします

ターゲット

データ活用を通じて、
事業成長や企業価値の最大化をミッションとする現場責任者の方

目的

主要プラットフォームの現状を理解し、
自社の状況に適した選択肢を考えるヒントを整理すること

アジェンダ①

データ基盤構築で現場が直面する「理想と現実」

データ基盤構築における理想 vs 現実



データ基盤におけるよくある理想と現実として、以下のような内容があげられます

	理想	現実
データ管理	全データの一元管理ができる 「DWHに入れれば、全てのデータが繋がる。」	サイロ化の加速 「S3にログ、Excelに予算、DWHに売上。結局DWH外で手作業でマージしている。」
活用フェーズ	即座にAI・RAG活用 「明日から高度なAI分析が自動で動き出す。」	前処理で力尽きる 「そもそもデータがAIに最適化されていない。名寄せとクレンジングだけで半年かかる。」
コスト感	運用レス&低コスト 「サーバーレスなので管理不要、利用量に応じた課金。」	見えないコストの増大 「青天井のクエリ課金と、専任エンジニアの体制構築が必要。」
組織・文化	脱Excel・データ民主化 「現場がSQLを使いこなし、複雑かつ属人的なマクロが組まれたExcel業務から脱却できる。」	“高級なCSVダウンロード機”化 「現場のExcel文化は変わらず、結局DWHからCSVをDLLして加工している。」

重要なポイント

「どのツールを使うか」ではなく
「今の業務フローとデータ構造を前提にどう構築するか」

アジェンダ②

主要プラットフォーム比較

プラットフォーム“現場目線”マッピング



各主要プラットフォームの違いは以下です

カスタマイズの自由度 高い



AWS環境の最適解
基幹システム寄り

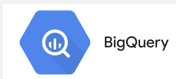


databricks

AI開発・非構造化データに強み
エンジニア向け

BI・集計・構造化

AI・非構造化



スプレッドシート連携など
非エンジニアでも触りやすい



管理が容易
AI機能も強化されておりバランス型

手軽に利用可能

現場活用にあたっての総合比較

ランニングコストや操作性に加えて、導入の容易さや将来のAI拡張性を軸に比較します



	Snowflake	Databricks	Amazon Redshift	BigQuery
ランニングコスト	<p>割高かつ複雑</p> <p>ツールとしての完成度が高い反面、最小構成でも維持費が高くなる傾向。</p>	<p>処理量に応じた課金</p> <p>大量データ処理の観点で料金は安い一方、小規模利用には不向き。</p>	<p>定額で予見しやすい</p> <p>リザーブド購入等で、大規模利用でもコストを一定に抑えやすい。</p>	<p>予測が難しいスキャン課金</p> <p>スキャン料課金のため、設計次第でコストが急騰するため、リスク管理が必要。</p>
導入のハードル	<p>データ移行が必須</p> <p>アカウント開設は容易だが、データをロードしないと性能が出ないため、設計・移行工数がかかる。</p>	<p>環境構築にエンジニアが必要</p> <p>ワークスペース設計や権限管理が複雑。</p>	<p>インフラ知識が必要</p> <p>サーバーレス版はあるが VPC などのネットワーク設計は必須。AWS の理解、セットアップが必要。</p>	<p>Google 製品との親和性</p> <p>スプレッドシート連携や、CSV/Excel のアップロードが容易で、即座に DB 化可能。</p>
運用・操作性	<p>インフラ管理不要</p> <p>GUI が直感的で、Excel ライクな操作感。SQL も標準的で覚えやすい。</p>	<p>エンジニア向け</p> <p>Notebook 形式が主体。Python/Spark 等の知識が必要な場面が多い。</p>	<p>既存 AWS エンジニア向け</p> <p>AWS 管理画面に統合。従来の DB 管理の延長で操作可能。</p>	<p>現場メンバー向け</p> <p>コンソールは非エンジニアでも扱いやすい</p>
将来性 (AI 活用)	<p>SQL ベースの AI</p> <p>AI 機能も拡充中だが、現時点では構造化データ分析が主戦場。</p>	<p>AI 実装の拡張性が高い</p> <p>生成 AI、非構造化データの扱いに長ける。将来的な AI 活用には最適。</p>	<p>AWS エコシステム</p> <p>本格的な AI 活用には他の AWS サービスとの複雑な連携が必要で、単体での手軽さは劣る。</p>	<p>Gemini との統合</p> <p>BigQuery ML など、SQL ベースでの AI 活用機能が充実している。</p>

アジェンダ③

失敗しないためのアーキテクチャ選定 「3つの論点」

選定にあたっての「3つの論点」



ツール比較表で挙げた4つの観点を踏まえ、自社に最適なアーキテクチャを選定するための「3つの論点」を整理します

1	運用体制	誰が運用し、既存の技術資産をどう活かすか
2	データ活用目的と将来性	手軽なBI分析中心か、将来的なAI実装を見据えた先行投資を優先するか
3	コスト構造とフェーズに適した最適解	事業フェーズに応じた想定予算と、許容できる課金形態(従量 vs 固定)の選択

論点1:運用体制と導入ハードルの整合性



ツールのスペック比較のみで検討せず、「誰が運用するのか」「既存スキルを活かせるか」という実態に合わせる必要があります

誰が
運用するのか

・専任エンジニア不在／現場主導：

GUI操作や標準SQLで完結する Snowflake や BigQuery が候補

・エンジニア主導：

高度なコードベース管理ができるなら Databricks、既存のインフラエンジニアが兼務するなら Redshift も候補に

導入・構築
の負荷

・即座に始めたい：

CSVアップロード等で即DB化できる BigQuery が最も低負荷

・既存環境の継承：

すでにAWSで基幹システムが動いている場合、VPC設計等を流用できる Redshift なら、セキュリティ設計の工数を圧縮可能

論点2: データ活用目的と将来性



今必要とされる分析だけでなく、将来的にどのようなデータを扱い、AIをどう活用するかを見据えて選定します。

活用目的と データの出口

- ・**ビジネス分析 (BI) 中心**: 構造化データの集計・可視化がメインなら、SQL機能が強力な Snowflake や BigQuery が最適です。
- ・**AI/機械学習の実装**: 画像・音声などの非構造化データや、LLMのファインチューニングまで行ったら Databricksが候補になります

将来性

- ・特定クラウドへのロックインを避けるなら、マルチクラウド対応の SnowflakeやDatabricks
- ・逆に、AWSやGoogleのエコシステムを利用して権限や連携機能に深く依存させることで、開発効率を上げる戦略も有効です

論点3:コスト構造とフェーズに適した現実解



高機能なDWHはコストも高額になりがちです。事業フェーズや活用目的に合わせた課金形態の選択、およびDWH以外のツールも検討候補に上がります

コスト構造

従量課金 (BigQueryオンデマンド等) :

- ・適したケース: データ量が少なく、利用頻度に波がある初期フェーズ
- ・特性: 使った分だけの支払いで無駄がない反面、クエリ設計次第でコストが青天井になるリスクを許容する必要

リソース確保モデル (Redshiftプロビジョニング等) :

- ・適したケース: 利用人数が多く月々のコストを一定に抑えたい運用安定期
- ・特性: 予算化が容易であり、使いすぎによる追加課金の心配もない

RDBの活用

・データ量が数TB未満で、複雑な非構造化データを扱わないフェーズであれば、高価なDWHは不要な可能性も

・Amazon RDS(PostgreSQL)等の参照用レプリカを活用すれば、固定費を低く抑える形で、十分高速な分析基盤を構築も可能

サービス紹介

お客様のよくある課題

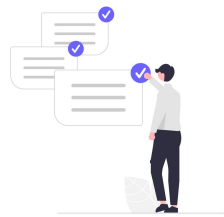


プロダクト開発やシステム開発における、Quality(品質)・Cost(価格)・Delivery(納期)にお悩みはありませんか？

プロダクト開発における課題

1

プロダクト開発の最適な進め方やあるべき姿が分からない



2

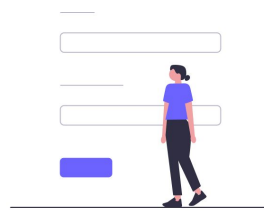
プロダクト開発にかかるコストや納期が大きい



システム開発における課題

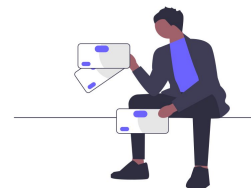
3

システム開発の最適な進め方やあるべき姿が分からない



4

システム開発にかかるコストや納期が大きい

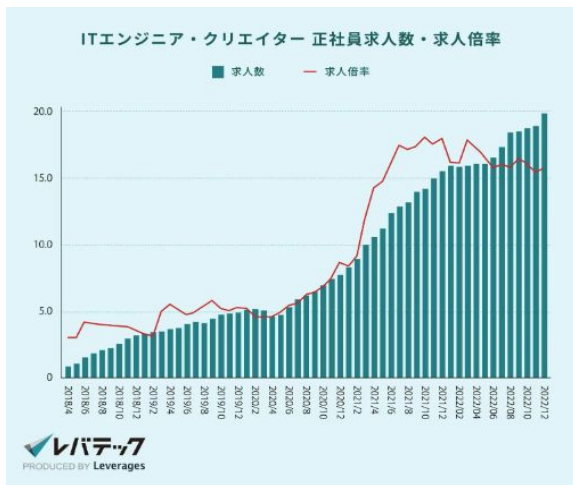


お客様のよくある課題



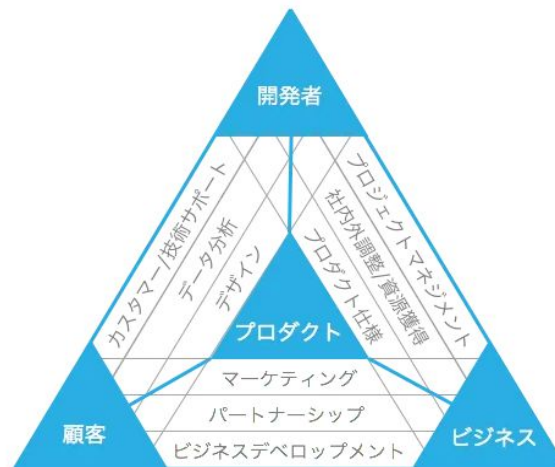
一方で、プロダクト開発やシステム開発のノウハウをもつ人材は採用が難しく、また、自己学習するには必要な知識が多く時間がかかります

開発人材の求人倍率 *1



* 1: ITエンジニア・クリエイターの求人倍率、15.8倍と高止まり続く | レバレッジ株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000531.000010591.html>

開発に必要とされる知識 *2



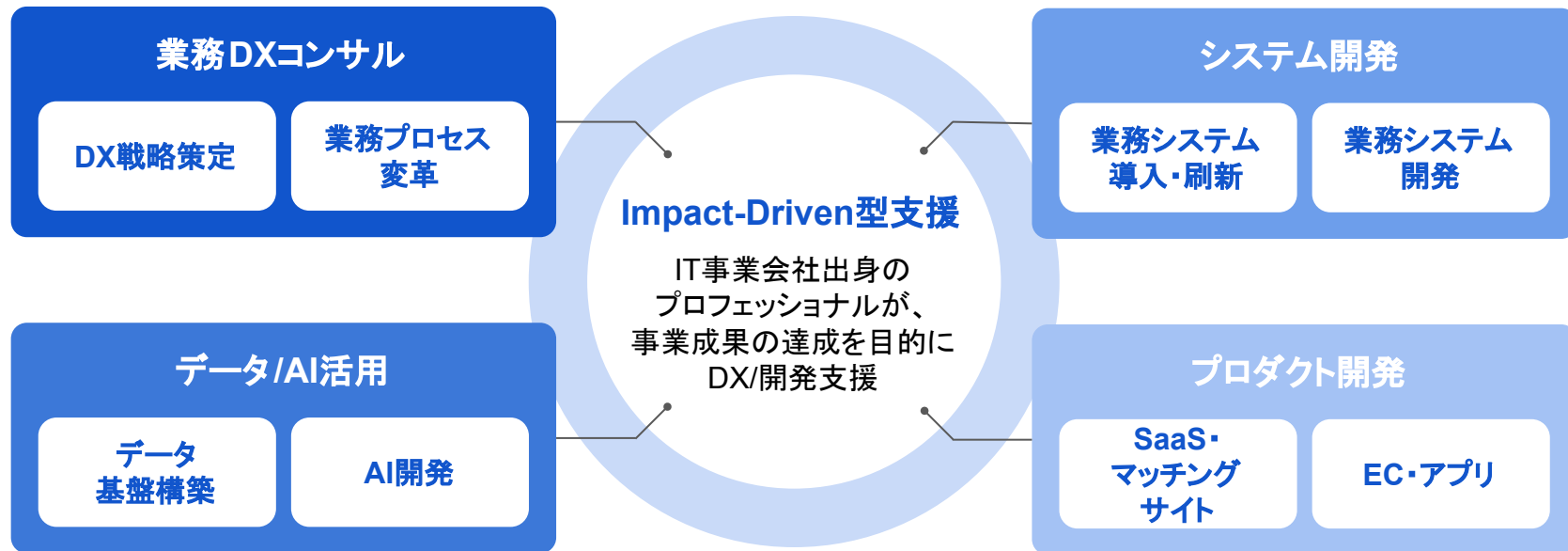
* 2: プロダクトマネジメントトライアングルと各社の PM の職責と JD | by Taka Umada | Medium
<https://tumada.medium.com/product-management-triangle-job-description-d18d1855ef65>

事業内容 ～Impact-Driven型支援～



IT事業会社出身のプロフェッショナルが、「Impact-Driven型支援」を通じて、お客様のDX/開発支援を成功へ導きます

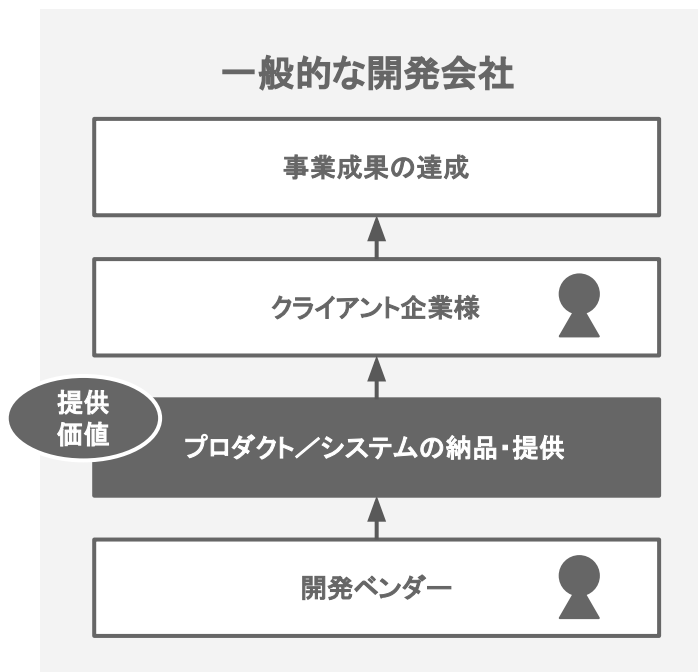
RIPLAが提供するサービス



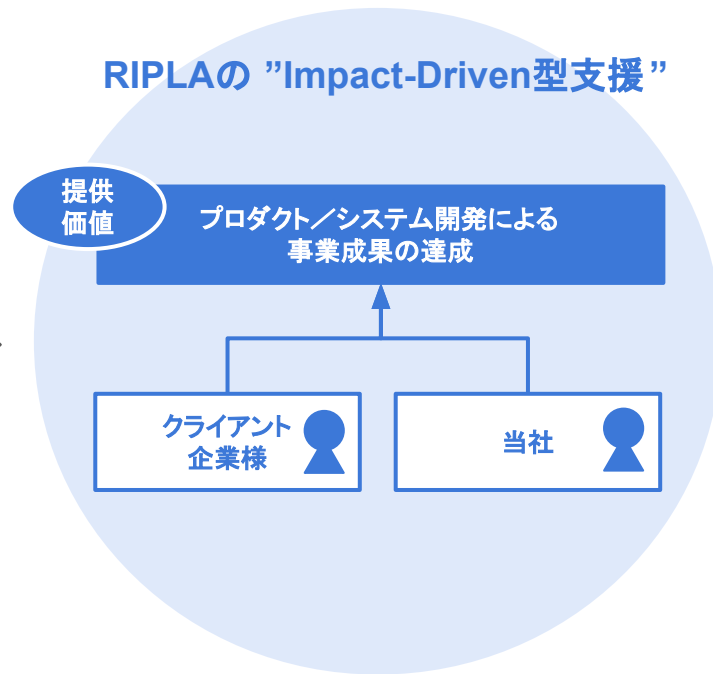
事業内容 ～Impact-Driven型支援～



「Impact-Driven型支援」では、プロダクトやシステムの納品・提供をゴールとせず、クライアント企業様と同じ目線で、事業成果の達成を目的としたDX/開発支援をいたします



RIPLAの "Impact-Driven型支援"



事業内容 ～Impact-Driven型支援～



具体的な支援手法として、ユーザー価値や組織浸透性を意識した要件定義、中長期の拡張性や内製化を見据えたシステム設計により、事業成果を最大化いたします

事業成果を意識した要件定義

- ✓ 事業成果やユーザー価値を意識した製品の機能企画や UI/UX設計
- ✓ 現場業務や組織浸透性を意識したシステムの要件定義

中長期目線で柔軟なシステム設計

- ✓ 中長期の拡張性や運用を見据えたアーキテクチャ設計
- ✓ 将来的な内製化に向けた採用しやすい技術選定

“Impact-Driven型支援”により、事業成果を最大化

事業内容 ～Boxシリーズ×AI駆動開発～



「Boxシリーズ」による標準機能の高速開発と、「AI駆動開発」による独自機能の柔軟な実装を組み合わせることで、低コスト・短期間で開発を実現いたします

Boxシリーズ

AI駆動開発



受発注管理 Box



在庫管理 Box



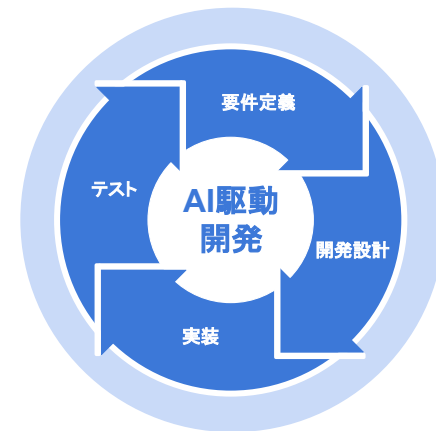
配送管理 Box



業務システム Box



生成AI Box



SaaS Box



マッチングサイト Box



EC Box



アプリ Box

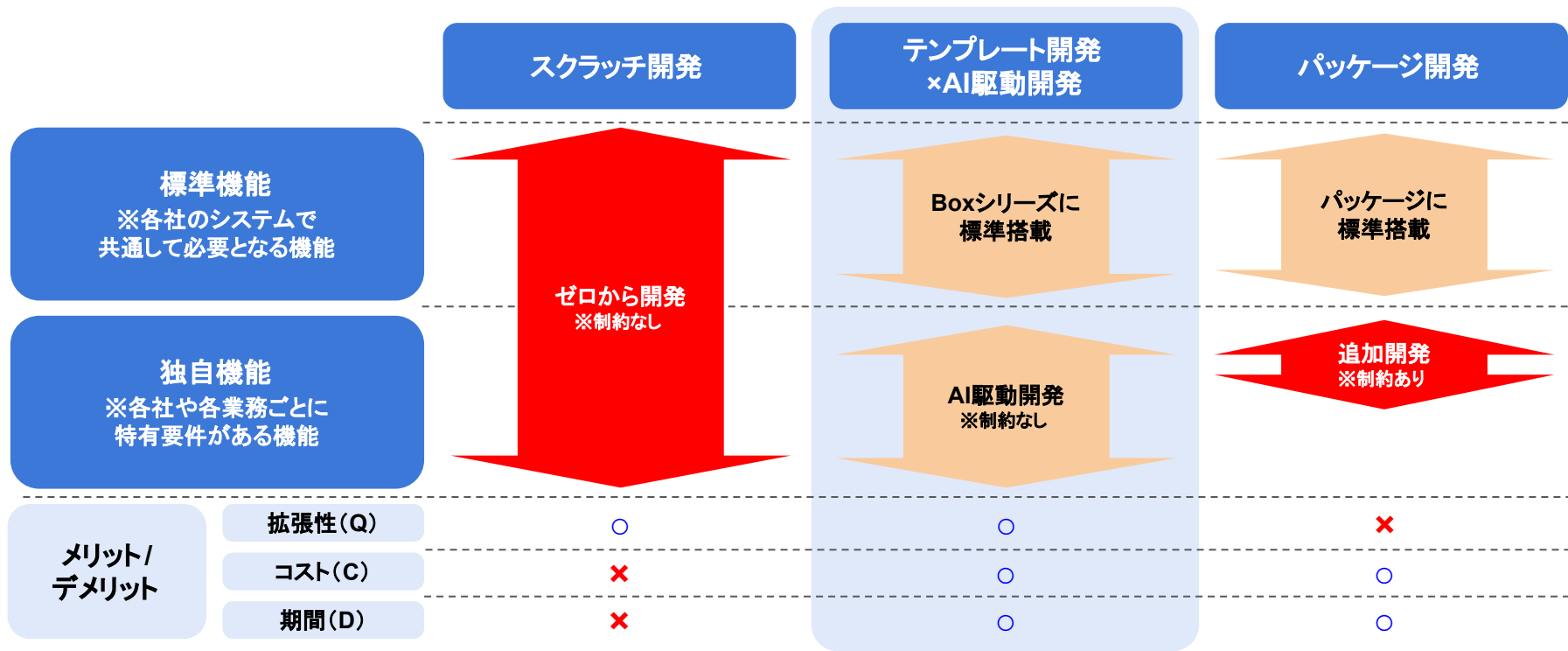


LINE Box

事業内容 ～Boxシリーズ×AI駆動開発～



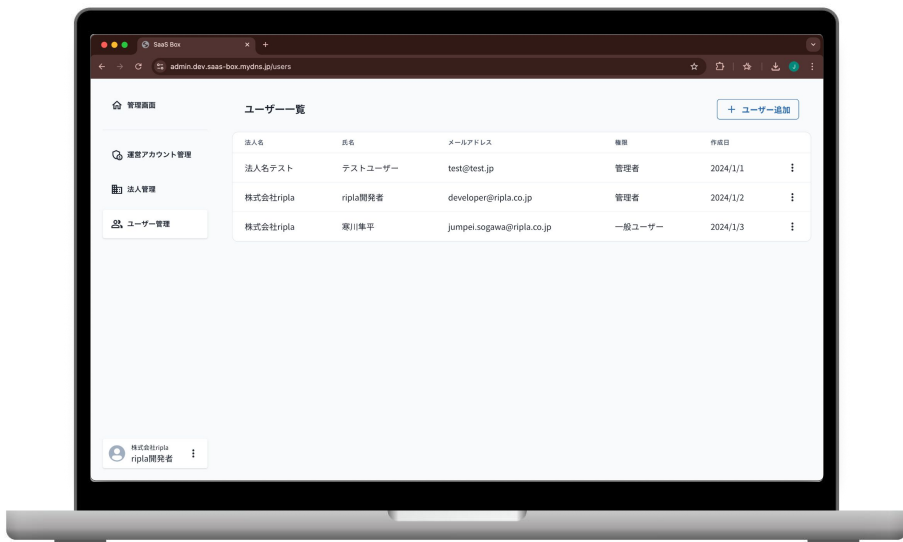
テンプレート開発(=Boxシリーズ)とAI駆動開発を併用することで、Q(拡張性)・C(コスト)・D(納期)の三点両立を実現いたします



事業内容 ～Boxシリーズ～



モダンな技術とUI/UXで各画面の開発・実装をしているため、そのまま使用することが可能です



モダンな技術とUI/UXで
標準機能を搭載

事業内容 ~Boxシリーズ~



Boxシリーズに搭載されている機能例は以下となります(以下一部)

<p>Box名称</p>	 <p>受発注管理 Box</p>	 <p>在庫管理 Box</p>	 <p>配送管理 Box</p>	 <p>業務システム Box</p>	 <p>生成AI Box</p>
<p>機能例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理 (受注/発注/商品) ・受注/発注管理 ・需給予測 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理 (出荷先/入荷元/商品) ・出荷/入荷管理 ・在庫管理 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理 (届け先/商品) ・配送管理 ・配送最適化機能 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理 ・権限管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・AI チャット機能 ・RAG基盤 ・ベクトルDB基盤 ・検証用画面 ・バッチ処理 ・インフラ構築
<p>Box名称</p>	 <p>SaaS Box</p>	 <p>マッチングサイト Box</p>	 <p>EC Box</p>	 <p>アプリ Box</p>	 <p>LINE Box</p>
<p>機能例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・法人管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マッチング機能 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理(顧客/商品) ・受注管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・プッシュ通知機能 ・アプリUI(iOS/Android) ・管理画面 ・インフラ構築 ・リリース申請 	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEログイン ・リッチメニュー基盤 ・LINE配信機能 ・公式アカウント情報連携 ・ユーザー管理/権限管理 ・インフラ構築

RIPLAの対応技術



AI・モダンな技術・クラウド型・APIなどの最新技術を活用することで、新規性のある取り組みや、拡張性や柔軟性の高い開発に対応可能です



AIを活用した業務効率化や 新たな価値創出

AI技術を活用することで、業務プロセスの自動化、レコメンド機能、自然言語処理、画像解析などが可能になります。



モダンな技術を活かした 高品質な開発

最新のモダン技術を活用することで、ユーザビリティの高いUI/UX設計、保守性の高いアーキテクチャを実現します。



クラウド型で拡張性のある システム構築

クラウドインフラを活用することで、柔軟かつ拡張性の高いシステムを構築し、初期投資を抑えることも可能です。



API連携による柔軟な 外部サービス連携

外部システムやSaaSとのスムーズな連携を前提としたAPI設計を行うことで、機能追加や業務連携が容易になります。

RIPLAの対応技術



また、お客様のニーズに応じて、幅広い技術を取り扱うことができます

フロントエンド



バックエンド



AI関連



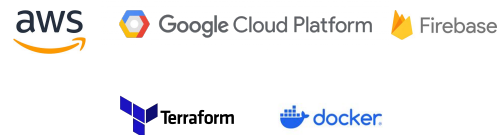
アプリ



DB関連



クラウド技術・その他



これまで多数の業務DXコンサル、データ/AI活用、システム開発、プロダクト開発の支援実績がございます

業務DXコンサル

- ・販売 / 顧客管理システムの刷新
- ・大手建設企業のDX戦略策定
- ・金属商社企業の基幹システム刷新
- ・広告SaaSのマルチプロダクト構想策定
- ・印刷EC新規事業の構想策定など

データ/AI活用

- ・訪問看護のAI FAQシステム
- ・AIデータ分析SaaS
- ・ホテル向けのデータ基盤構築
- ・AI画像解析による商品棚在庫管理
- ・コーチングのAIチャットボットなど

システム開発

- ・物流系WMS / OMS
- ・ガソリンスタンド受発注管理システム
- ・営業ナレッジマネジメントシステム
- ・訪問看護のスケジュール管理システム
- ・ドローン機器管理システムなど

SaaS

- ・研修管理 / 学習管理SaaS
- ・LINEチャットボットSaaS
- ・SFA / CRM SaaS
- ・設備保全管理SaaS
- ・採用管理SaaS など

マッチングサイト・EC

- ・インフルエンサーマッチングサービス
- ・求人検索メディア
- ・美容師マッチングサービス
- ・ビジネスマッチングサービス
- ・オンラインチケット販売EC など

アプリ

- ・献立共有アプリ
- ・旅行ガイドブックアプリ
- ・医療用スマホアプリ
- ・スポーツゲームアプリなど



RIPLA